

〔下學集〕下脚半キヤウハン

〔書言字考節用集〕服六脚絆キヤウバン 兵具 繳脚布ハクキヤウフ 時珍云則裏脚 脛巾キヤウキン 延喜式 裏脚

〔倭訓栞〕前編二十四はゞき 令及和名抄に脛巾をよめり、また行纏をよめり、はぎ佩の義也とい

へり、偪も同じ、日本紀に、脛裳をはゞきともよめり、今の脚絆も同じ、

〔倭訓栞〕中編五きやはん 脚絆の音也といへり、古へのむかばき也、脚半とも書り、修驗道の十六

道具書に見えたり、

〔類聚名物考〕裝飾四はばき 脛巾 脚絆 行纏和名抄

今これを俗には脚絆といふは、すねばかりにはく物也、又股はばきといふは、今いふ股ひき也、も

と行騰ムカギといふ物、このもとなるを、次第に轉じてかくもなりたる也、

〔嬉遊笑覽〕服二上今猿樂狂言に袴を高く、り、脚半をはきたる體あり、も、はきは股にはくなり、

はくはもと帶ることなれども、轉りては著る股まで入るはゞきとするはいかゞも、はきを股

ぬきともいふにや、東鑑壽永元年六月七日の條にいふ、以股解沓、差八尺串云々、宇治拾遺九常ま

さが郎等佛供養の條に、太刀はきも、ぬきはきて出きたりといへり、とあり、されども、はきは

は、今の半股引の如く思はれ、ぬきは股解沓と同じかるべければ、も、はきとは異なるべし、

思ふに信貴山縁起の繪に、熊の皮にて作りたる沓の、膝ふしの下までかゝる物見えたり、和名抄

に、深頭履とあるものならむも、ぬきとは、股まで入るやうの物にや、略 下

〔令義解〕衣服六朝服武 衛府略 其志以上、並皂纒頭巾略 中 烏皮履會集等日 略 註 加錦襦襦赤脛巾帶弓箭、以鞋代履、兵衛

皂纒頭巾略 中 白脛巾略 中 主帥略 中 白脛巾略 中 並朝廷公事則服之、衛士皂纒頭巾略 中 白脛巾

〔令義解〕軍五防、凡兵士、每火紺布幕一口略 中 脛巾一具、鞋一兩、皆令自備、